



# 目標は 殺処分ゼロ

犬と猫が保健所や愛護センターに持ち込まれる要因は複雑多岐で、解決は容易ではありません。だからこそ、その要因を一つずつ紐解いていき、少しずつでも「殺処分ゼロ」に向けて進んでいきます。

## ペットを廃棄物扱いする 飼い主たち

平成26年度の政令市を含めた福岡県全体の犬・猫の引き取り数は5,624匹で、全国の都道府県で5番目に多い数です。

桂川町を含む筑豊地区を管轄する嘉穂・鞍手保健福祉環境事務所、いわゆる保健所と呼ばれる機関では、狂犬病予防や動物愛護に関する業務を行っており、犬・猫の引き取りも業務の一つです。

しかし、身勝手な理由でペットの引き取りを希望する飼い主が多く、生活衛生係の植中係長は当惑していると言います。

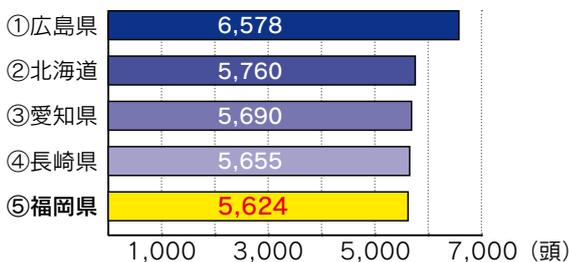
「まるで廃棄物を捨てに来たかのように、飼い犬や飼い猫を持ち込んでくる人が多くいます。」

切実な理由の場合もありますが、『引越先がペット禁止だから』『子犬をたくさん生んで面倒が見れないから』などの理由で来られた方には、新しい飼い主を探すように説得しています」

福岡県嘉穂・鞍手  
保健福祉環境事務所  
保健衛生課 生活衛生係  
植中 俊尚 係長



【都道府県別犬・猫の引き取り数】



(出典：環境省『平成26年度犬・猫の引取り状況』)

## column 飼い主が犬と猫を保健所に持ち込んだ理由の一例

- ▶ 飼い主が高齢で、飼うのが辛いから
- ▶ 大きくなってかわいくなかったから
- ▶ 吠えるから。怒っても言うことを聞かないから
- ▶ どれだけつけてもフンの場所を覚えないから
- ▶ エサ代が苦しいから
- ▶ 子犬・子猫が生まれたけどもらい手がなかったから
- ▶ 犬が年を取り、飼うのが面倒になったから